

『「道の駅」第3ステージ』の定義

国土交通省 道路局
企画課 評価室
令和6年5月

「道の駅」第3ステージ推進委員会の設立趣旨

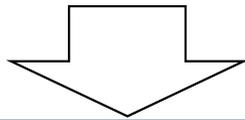
- 「道の駅」は制度創設以来、四半世紀が経過し、全国で1160駅に展開、年間2億人以上の方々に利用され、提供するサービスに対して更なる期待が高まるとともに、防災や観光、福祉など多様な社会ニーズへの対応も求められている。
- これを踏まえ、2020年からは「道の駅」第3ステージとして位置づけ、今後取り組むべき指針について、『新「道の駅」あり方検討会』より、昨年11月に提言を頂いたところである。
- 本委員会は、提言に示された新たなコンセプトである『地方創生・観光を加速する拠点』及び『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』を実現するため、必要な施策の具体化の検討やフォローアップ等について、産学官連携の下で着実に推進することを目的とする。

(第1回「道の駅」第3ステージ推進委員会 配布資料より)

第1ステージ(1993年～)

『通過する道路利用者のサービス提供の場』

- 道路利用者が安心して休憩できる場を提供



＜大容量駐車場を有する「道の駅」＞
※(左)道の駅みぶ、(右)道の駅針T·R·S

第2ステージ(2013年～)

『道の駅自体が目的地』

- 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展



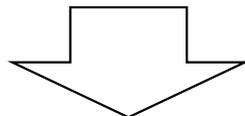
＜観光客や家族が楽しめる空間の提供＞
※道の駅「川場田園プラザ」



＜加工場の併設により地域雇用の創出＞
※道の駅「川場田園プラザ」



＜防災セミナーの開催＞
※道の駅「もてぎ」



第3ステージ(2020年～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』

- 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速
- 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献

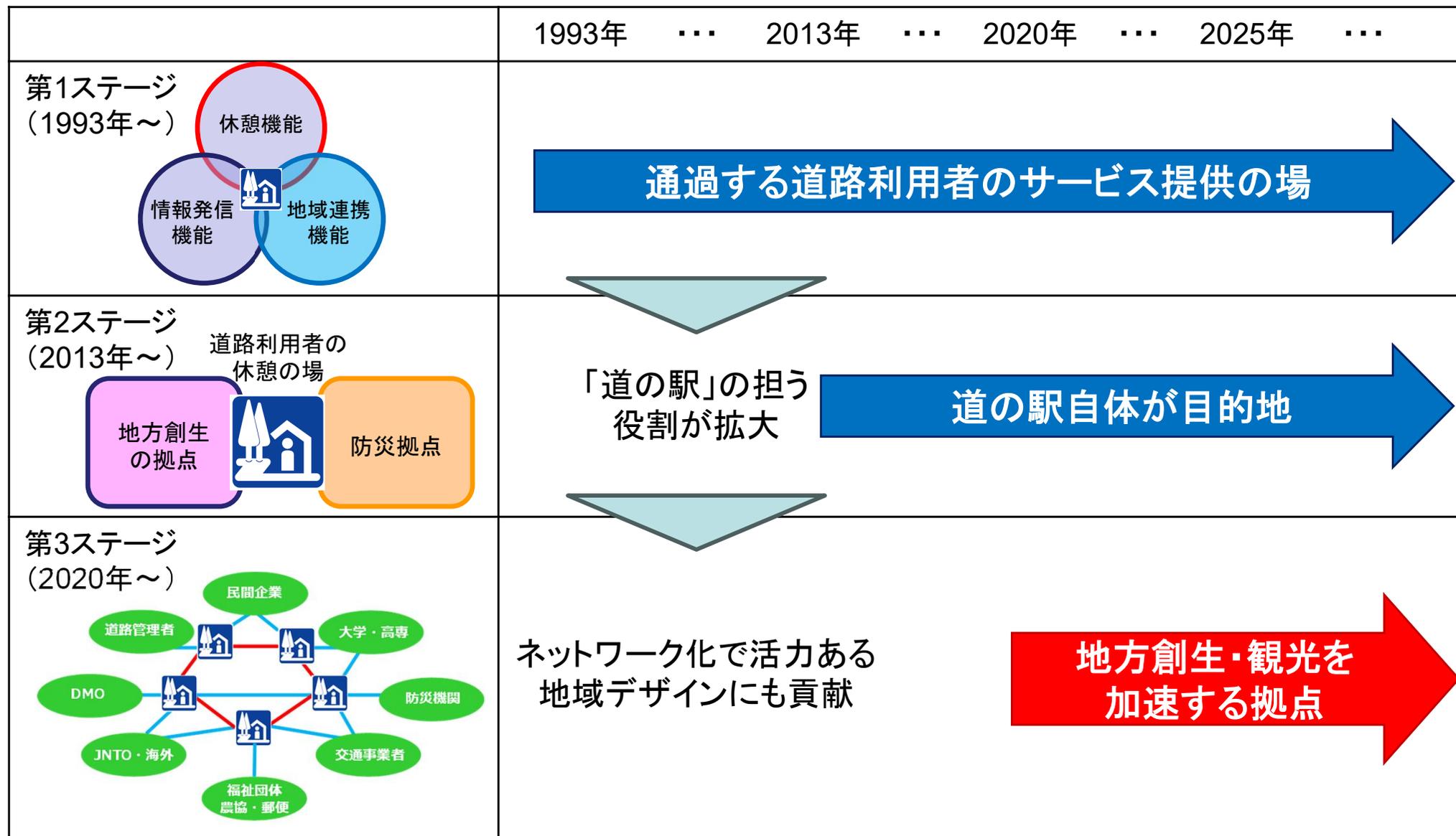
新たな「道の駅」ネットワーク



第3ステージの概要



- ステージは切り替わるものではなく、また、上下関係にもない。
- 第1～第3ステージまで機能・役割が積み重ねられてきたもの。
- 2025年を期限として終わるものではなく、今後も「道の駅」の発展の基礎となるもの。



- 第2ステージと第3ステージは、「道の駅」が単なる「休憩場所」を超えて地方創生や観光の発展につながるものという点は共通する。
- 第2ステージは「道の駅」を魅力的にすることにより、結果として地方創生に導く取組であることに対し、第3ステージは「まち全体」を中心にコンセプトを共有し、「まち」と「道の駅」が一体で進める取組である。

中心的な課題意識

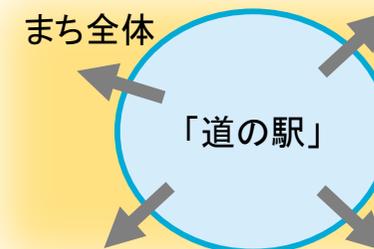
コンセプトの立て方

地域の発展の姿

第2ステージ

「道の駅」の発展

「道の駅」の
魅力を高める
コンセプト



「道の駅」の取組が結果として「まち」に波及

第3ステージ

「まち」の発展

「まち」全体の
魅力を高める
共通コンセプト



「まち」と「道の駅」が一体で発展

「道の駅」第3ステージのコンセプト

『地方創生・観光を加速する拠点』

『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』

「2025年」に目指す3つの姿

「道の駅」を
世界ブランドへ

新「防災道の駅」が
全国の安心拠点に

あらゆる世代が
活躍する舞台となる
地域センターに

【考え方のポイント】

- 地方創生・観光の取組は、「道の駅」単体でなく、まちぐるみで進める必要
- まち（市町村）の目指すものと、「道の駅」の目指すものが合致している必要
- 結果的に地方創生の場になっているものではなく、まちと「道の駅」の双方が共通の意志を持って取組を進めることが重要

第3ステージに該当する「道の駅」とは
地域が主体となり「まち」と「道の駅」が一体で目指すものを共有し、意志を持って、戦略的にコンセプトの実現を成し遂げている「道の駅」